

臓器移植医療・看護に関する A 短期大学看護学生の意識の現状

ー 臓器移植医療・看護に関する講義を導入してー

The awareness of nursing-students in A nursing college regarding the organ transplantation and nursing -
The results of lecture on organ transplantation and nursing-

和田由里*, 藤田和加子

【概要】

本研究は、臓器移植医療・看護に関する教育を導入していない A 短期大学の看護学生 86 名を対象に、臓器移植に関する講義 (90 分) を実施し、臓器移植医療・看護に関する講義前後に質問紙調査を行い、臓器移植医療・看護に関する教育導入の有用性を明らかにすることを目的とした。調査の結果、82 名 (95.3%) の回答が得られ、有効回答数は 66 名 (80.4%) であった。講義前後の結果では、「ドナーに関する理解」「レシピエントの理解」「生体臓器移植の理解」「脳死臓器移植の理解」「心停止後臓器移植の理解」「移植コーディネーターの存在の理解」「移植医療の現場で働くことの興味」の 7 項目で有意に高く、講義後に臓器移植医療・看護に関する興味、理解が深まった。また、生体臓器移植に関する医療・看護について、認知度、イメージ、教育の必要性、看護職者の役割について、学生自身が「望むこと」を自由記載欄の記述データを内容分析した結果、講義前は【移植医療に関する知識習得への意欲】【移植医療に対する自身の考え】、講義後は【移植医療に関する興味・関心度の変化】【移植医療に対する自身の考えの変化】の 4 つのカテゴリが抽出された。これらの結果から、講義受講をきっかけに臓器移植に関する理解や認識は深まり、学生の臓器移植に関する興味や関心はより専門的なものへと変化したことが明らかとなった。

キーワード：臓器移植医療, 生体臓器移植, 脳死臓器移植, 看護学生, 看護教育

Key Words: Organ transplantation, Living organ transplantation, Brain death organ transplantation, Nursing-students, Education of Nursing

1. 緒言

わが国では、2010 年の臓器移植法改定に伴い脳死臓器移植数は年々増加傾向にある¹⁾。また、生体臓器移植医療についても治療の一選択肢として定着してきている。これらの臓器移植医療におけるドナーの意思決定支援には、移植医をはじめとする看護師や移植コーディネーター、臨床心理士など様々な医療従事者がチームとして関与しており、医療専門職者として高い倫理観が求められている²⁾。一方で、臓器提供に関するドナーの意思決定においては、ドナー候補者に多くの心理的葛藤や圧力が加わっているとの報告もあり³⁾、看護師はドナー候補者の意思決定支援に関わる移植医療チームの一員として重要な役割を担っているという。ゆえに、将来、臨床現場に従事する看護学生に対し実施する臓器移植に関する教育の在り方を検討する必要があるのではないかと考える⁴⁾。臓器移植に関する教育を実施している看護系大学での先行研究では、教育内容や時間について、61.1%が「不十分」と回答したと報告がある⁵⁾。そこで本研究の先行研究として臓器移

植に関する教育を行っていない A 短期大学の看護学生を対象に臓器移植に関する理解度や興味・関心について実態調査を行った⁶⁾。この調査の結果から、レシピエントや移植コーディネーターの役割に関する理解度は著しく低く、臓器移植に関する教育の必要性を感じている学生が多いことが明らかとなった。その結果を受け、本研究では A 短期大学の看護学生を対象に臓器移植に関する講義を (1 コマ 90 分) 実施し、講義前後の移植に関する理解や興味の変化を比較・検討、また、生体臓器移植に関する医療・看護について、学生自身が「望むこと」を自由記述した内容を質的に分析することで、看護学生に対する臓器移植医療・看護の教育の導入の有用性を明らかとすることを目的とした。

2. 方法

2-1 研究対象

臓器移植医療・看護に関する教育を導入していない A 短期大学に通う看護学生 2 回生計 86 人

2-3 調査期間

* 大阪大学院医学系研究科保健学専攻

2019年11月
2-3 調査方法
無記名自記式質問紙調査
2-4 講義内容

ある」「⑤大変ある」を回答選択肢とした。また、質問紙調査表の巻末に、生体臓器移植に関する医療・看護について、認知度、イメージ、教育の必要性、看護職者の役割になど、学生自身が「望むこと」を自由に記

表1. 臓器移植講義前後の理解・興味 N=66

| | 講義前 M (SD) | 講義後 M (SD) | | P値 |
|------------------|---------------|---------------|----|------|
| ドナーの理解 | 3.67 (0.66) | 4.09 (0.52) | ** | 0.00 |
| レシピエントの理解 | 2.30 (1.16) | 3.98 (0.69) | ** | 0.00 |
| 生体臓器移植の理解 | 3.24 (0.84) | 4.05 (0.57) | ** | 0.00 |
| 脳死臓器移植の理解 | 3.56 (0.70) | 4.09 (0.52) | ** | 0.00 |
| 心停止後臓器移植の理解 | 3.15 (0.88) | 3.98 (0.64) | ** | 0.00 |
| 移植コーディネーターの理解 | 2.33 (0.98) | 3.70 (0.72) | ** | 0.00 |
| 生体臓器移植への興味 | 3.73 (0.76) | 3.91 (0.70) | | 0.19 |
| 移植医療の現場で働くことの興味 | 3.24 (0.84) | 3.68 (0.77) | ** | 0.00 |
| 生体臓器移植の教育の必要性 | 4.14 (0.63) | 4.24 (0.61) | | 0.29 |
| 生体臓器移植の看護の役割の重要性 | 4.20 (0.68) | 4.26 (0.71) | | 0.67 |

**p < 0.01

臓器移植医療・看護に関する講義の内容は、①臓器移植の一般的知識(移植臓器や移植までの手続きなど)、②死体臓器移植、③生体臓器移植、④日本の移植事情と移植に関する法律(移植コーディネーターの役割を含む)、⑤海外の移植事情とイスタンブール宣言、⑥グリーンリボンの6項目について、パワーポイントを用いて説明を行い、上記6項目に関する講義資料を配布した。

2-5 調査内容

本研究の対象学生に、臓器移植医療・看護に関する講義を(1コマ90分)行い、その講義の前と後の2回に分け同じ内容の無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、対象学生の年齢(年代)、社会人経験の有無、また、臓器移植医療の理解度、興味・関心、看護教育の必要性など10項目であった。評定については5段階とし、ドナーに関する理解、レシピエントに関する理解、生体臓器移植に関する理解、脳死臓器移植に関する理解、心停止後臓器移植に関する理解、移植コーディネーターの理解に関する質問内容については、「①全く知らない」「②知らない」「③どちらともいえない」「④理解している」「⑤とても理解している」で回答を得た。また、生体臓器移植の興味・関心、移植医療現場で働く興味・関心、生体臓器移植の教育の必要性、生体臓器移植の看護の役割の重要性については、「①全くない」「②ない」「③どちらともいえない」「④

述する欄を設けた。

2-6 分析方法

2-6-1 質問項目に関するデータ分析

対象者の属性に関する記述統計後、Wilcoxonの符号順位検定を用いて講義前後の比較・検討を行った。分析にはSPSS 21.0J for Windowsを用いて、有意水準5%に設定し統計的処理を行った。

2-5-2 自由記載欄の記述内容に関するデータ分析

講義前後のアンケート用紙を用いた質問紙調査の下欄に移植医療に関する興味・関心や自身の考えについて記載する自由記載欄を設けた。講義前後の其々に記載された内容をデータとした。講義前後のデータ共に内容分析の方法を参考に分析を行った。記載内容をデータより移植医療に関する興味・関心や自身の考え、また、移植医療の講義や知識の習得に関する学生自身の認識に関連する箇所を意味の取れる単位で抽出し、データの類似性、相違性を比較して、講義前後のデータをコード化した。文脈を意識し意味の共通するコードをサブカテゴリ化し、サブカテゴリを比較・分類しカテゴリを抽出した。質的研究に精通した研究者よりスーパーバイズを受けた。

2-7 倫理的配慮

対象者に、研究の主旨について文書を用いて説明した。また、調査研究は自由意志であること、協力の有無によって不利益を被らないこと、データは集団とし

て取り扱い、厳重に保管すること、単位認定に影響しないことなどを説明し、質問紙の提出をもって同意とみなした。本研究は、大阪信愛学院短期大学の研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号 R1-10）。

つのカテゴリ【移植医療に関する興味・関心度の変化】と【移植医療に対する自身の考えの変化】が抽出された。【移植医療に関する興味・関心度の変化】では、〈移植に関する一般的知識の不足を認識〉と〈看護職者としての専門的知識の習得を望む〉の 2 つのサブカテゴリで構成された。【移植医療に対する自身の考えの変化】

表 2. 生体臓器移植医療・看護教育に関する学生の望むこと

| | カテゴリ | サブカテゴリ |
|-----|-------------------|---|
| 講義前 | 移植医療に対する知識習得への意欲 | 理解を深めたいが学ぶ機会がない 看護者の具体的な役割を知りたい |
| | 移植医療に対する自身の考え | 既存の知識を基にした当事者に投影した自身の考え 移植医療に対するネガティブなイメージ |
| 講義後 | 移植医療に対する興味・関心度の変化 | 移植に関する一般的知識の不足を認識 看護職者としての専門的知識の習得を望む |
| | 移植医療に対する自身の考えの変化 | ドナーやレシピエント、家族に対する医療者としての考え ドナーカード携帯に対する必要性を考える |

3. 結果

3-1 対象者の属性

質問紙の回収率は 95.3% (82 名)、有効回答率は 80.4% (66 名) であった。年齢は 10 歳代が 30.3% (20 人)、20 歳代が 66.7% (44 人) 30 歳代が 3% (2 人) であり、うち社会人経験者は 13.6% (9 人) であった。

3-2 質問紙項目に対する回答結果（講義前後の比較）について

生体臓器移植に関する医療・看護の理解・興味の講義前後の比較をみるために、Wilcoxon の符号順位検定で比較検討した。その結果、「ドナーに関する理解」「レシピエントの理解」「生体臓器移植の理解」「脳死臓器移植の理解」「心停止後臓器移植の理解」「移植コーディネーターの存在の理解」「移植医療の現場で働くことの興味」の 7 項目で有意差がみられた（表 1 参照）。

3-3 自由記載欄に記載された内容結果について

講義前の記述データからは、57 のコードから 2 つのカテゴリ【移植医療に関する知識習得への意欲】と【移植医療に対する自身の考え】が抽出された。【移植医療に関する知識習得への意欲】では、〈理解を深めたいが学ぶ機会がない〉と〈看護者の具体的な役割を知りたい〉の 2 つのサブカテゴリで構成された。【移植医療に対する自身の考え】では、〈既存の知識を基に移植当事者に投影した自身の考え〉、〈移植医療に対するネガティブなイメージ〉の 2 つのサブカテゴリで構成された。また、講義後の記述データからは、31 のコードから 2

では、〈ドナーやレシピエント、家族に対する医療者としての考え〉と〈ドナーカード携帯に対する必要性を考える〉の 2 つのサブカテゴリで構成された（表 2 参照）。

4. 考察

臓器移植医療・看護に関する講義の前後に行われた本研究の質問紙調査の結果、7 項目において有意差が得られた。このことから、学生は臓器移植医療・看護について一定の理解を得られ、講義の有用性が示されたと考えられる。本研究の対象となった短期大学においてはこれまで各科目において臓器移植医療における教育の導入を行っておらず、対象となった学生は入学時より移植医療・看護に関する説明や話題に触れることがなかったため、多くの項目において講義前後の有意差が示された可能性が高いと考えられる。しかしながら、有意差が得られなかった「生体臓器移植への興味」、「生体臓器移植の教育の必要性」、「生体臓器移植の看護の役割の重要性」の 3 項目に関してみると、講義前のデータの平均値が高かったことから講義前から臓器移植医療について興味や関心、教育の必要性を学生自ら感じていたと考えられる。このことから、1 コマ (90 分) と限られた時間であっても講義を通して、看護学生の臓器移植医療・看護に対する学習への意欲を充足できうるものであるといえる。また、本研究の先行研究の結果から、臓器移植医療に関する教育を導

入していない看護学生は移植医療を一般的に行われている医療と捉えていない可能性が示された⁶⁾。近年、臓器移植医療は進歩し、医療ツーリズムの増加に伴い今後はより多くの移植医療に関係する患者や家族に携わることが容易に推測される⁴⁾。このような背景を鑑み、近年では臓器移植に関する講義を導入する看護系大学や講義に関する研究も増加傾向ではある。しかしながら、未だ講義内容や時間数、それらに関する検討は不十分な状況であると考えられる^{6, 7, 8)}。今後の移植医療を含む臨床現場で従事する看護職者として、臓器移植医療・看護に関する教育の導入と拡充の必要性は高いのではないかと考える^{9, 10)}。

さらに、自由記載欄に記された内容を分析した結果からも、学生は講義を受講する前から臓器移植医療に関して(理解を深めたいが学ぶ機会がない)と感じていることが示され、看護学生として学びを深める機会がないと捉えていることが明らかとなった。先行研究でもあるように、学生は臓器移植医療に興味や関心はあるが、新聞、本、雑誌やSNS等のマスメディアを利用した一般的な情報や知識の獲得に留まっていることが現状である¹¹⁾。本研究の結果から、臓器移植に関する(看護者の具体的な役割を知りたい)といった【移植医療に関する知識習得への意欲】が示されたことから、学生自身は、臓器移植医療に関して、将来的に看護職者として必要な知識であることを認識していると考えられる。本研究の先行研究では、臓器移植医療のドナーに関しては一定の理解があると認識していた学生が約80%いた⁶⁾。しかしながら、本研究の講義を受講した後の自由記載の結果からは、(移植に関する一般的な知識の不足を認識)したことが示された。このことから、SNSやマスメディアから臓器移植に関する一般的な情報を入手し、ある一定の理解をすることにより、学生は知識が習得できていると捉える傾向があるといえる。講義を導入することにより、講義前の自身の知識は単なる断片的に入手した情報に過ぎず、将来の看護職者として必要かつ十分な知識が不足していることを改めて認識する機会となると言える。このような知識不足を認識する機会が与えられることにより、新たな知識獲得に向け学習意欲の向上に繋がるのではないかと考えられる。また、本研究の結果から(ドナーやレシピエント、家族に対する医療者としての考え)と(ドナーカード携帯に対する必要性を考える)に関して、移植医療に対する学生自らの考え方に変化がもたらされた。講義前と比較するとより専門的な観点から臓器移植に関する興味や関心が高まったと言える。こ

のことから、実施された講義は、看護学生として、また、将来の医療従事者として臓器移植医療の現状を捉え、臓器を提供するドナーだけでなく、臓器を提供する側のレシピエントやその家族についても考えを深める機会に繋がったといえる。さらに、講義は(ドナーカード携帯に対する必要性を考える)機会となり、臓器移植医療現場におけるドナー不足やドナー選択に関する意思決定の難しさを認識したといえる。臓器移植医療では、臓器提供の意思決定に関する多くの場面に直面し、看護職者として患者や家族への支援が求められる。意思決定をチーム医療の一員として支援するためにも、移植に携わる多職種が存在や理解を深める必要があると言える¹²⁾。本研究の先行研究結果では、移植コーディネーターの存在や役割について、78%の学生が「理解していない」と答えた。今回の講義は、臓器移植医療の現場における看護職者の役割やチーム医療の一員としての看護職の役割について学びを深める機会となったのではないかと考える。移植医療が進歩する中、将来の看護職者として必要な知識や学びを深める機会やチーム医療の一員としての役割の認識を深める機会といった観点から、臓器移植医療・看護に関する教育の導入は看護学生にとって一定の有用性が示されたと言える。本研究は、研究対象が1施設であることから調査結果のデータから一般化を図ることは困難である。また、講義に必要なコマ数や内容をさらに検討し、学習効果と有用性を検証する必要があるといえる。

5. 結論

本研究では、臓器移植医療・看護に関する教育を導入していないA短期大学の看護学生を対象に臓器移植に関する講義を実施した。講義実施の前後に行った移植に関する理解や認識に関する質問紙調査の結果、10項目中7項目について有意差がみられ、講義受講により理解は深められ学習意欲が充足されたといえる。また、質問紙調査にある自由記載の結果から、講義をきっかけに臓器移植医療・看護に関する知識不足を認識することへと繋がり、学生の臓器移植に関する興味や関心はより専門的なものへと変化したことが明らかとなった。このことから、看護学生において、日々進歩する臓器移植医療に関する教育導入の重要性が示唆された。

謝辞

本研究にご理解とご協力を頂きました看護学生の皆様に深く感謝致します。

本研究における利益相反は存在しない。

文献

- 1) 岡部祥, 岸聡子, 赤星京子, 他 : 生体ドナー候補者の意思決定の支援 レシピエント移植コーディネーターの立場から, *The Japanese Society of General Hospital Psychiatry*, 22, 343-350 (2010)
- 2) 西村勝治: 生体臓器移植ドナーの意思確認に関する指針, 日本総合病院精神医学会, 治療戦略検討委員会 臓器移植関連委員会(編) 東京:星和書店, 9-54 (2013)
- 3) 永田明, 長谷川雅美 : 日本の一医療機関で生体肝移植ドナーを体験した人々の「口を閉ざす行動」の背景にある文化, *日本看護研究学会雑誌*, 35, 13-24. (2012)
- 4) 新田純子 : 看護師の臓器提供に対する態度尺度・知識尺度の開発と信頼性・妥当性の検討 臓器提供関係施設看護師を対象とした実証的研究, *日本看護研究学会雑誌*, 29(4), 15-22 (2006)
- 5) 添田英津子, 習田昭裕, 古米照恵, 他 : わが国が国の看護系大学における移植に関する教育の実態, *日本移植・再生医療看護学会誌*, 13 (1), 20-25 (2018)
- 6) 藤田和加子, 和田由里, 石井あゆみ. : 臓器移植医療・看護に関する A 短期大学看護学生の意識の現状, *日本医学看護学教育学会学会誌*, 28 (1), 62-66 (2019)
- 7) 椿美智博, 藤後秀樹, 小林幹紘, 他. : 看護学生の臓器提供への態度に関するナラティブレビュー, *日本移植学会学会誌「移植」*, 55 (2), 100-118 (2020)
- 8) 習田明裕, 森田孝子, 添田英津子, 他 : わが国の看護基礎教育における移植に関する看護教育のあり方について 看護系大学における移植看護教育の実態調査から, *日本移植・再生医療看護学会誌*, 10(1), 39 (2014)
- 9) 川久保和子, 宮武陽子, 中村史江, 他 : 成人看護学領域における移植医療教育に関する文献検討, *足利工業大学看護学研究紀要*, 3(1), 37-45 (2015)
- 10) 小林光樹, 浅沼良子, 齋藤ひろみ, 他 : 看護学生の「脳死判定」と「臓器移植」に関する意識調査, *東北大学医療技術短期大学部紀要*, 9(2), 175-180 (2000)
- 11) 真部昌子, 小濱優子, 赤坂憲子 : 脳死・臓器移植に対する看護学生の意識—2002 年と 1992 年の調査結果と比較して—, *川崎市立看護短期大学紀要*, 8(1), 29-36 (2003)
- 12) 和田由里, 梅下浩司, 萩原邦子, 他. : 生体臓器移植ドナーの意思決定を支えるレシピエント移植コーディネーターの関わり, *日本移植学会学会誌「移植」*, 53(4・5), 293-298 (2018)

受理 2022 年 3 月 31 日

公開 2022 年 4 月 27 日

<連絡先>

和田由里

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-7

大阪大学院医学系研究科

Tel : 06-6879-5111

E-mail : 25b14022@sahs.med.osaka-u.ac.jp